

『君は向こう側』

◇登場人物

・男1

・女1

・男2

部屋の中。適当に物が置かれている。

男1と女2、向かい合って座っている。片付けをしているようにも見える。

女1 やっぱりさ、一応同棲だから二人で一緒についているのがあるとは思
うんだけど、あ、でもこれはアリサの意見っていうか感覚(?)みた
いな、なんかそういう、なんか、あれだから、だから全然ユウジの意
見とか言ってもらって全然いいんだけど、いいんだけどっていうか、
言ってるっていうのがあるんだけど。で、あのお、同棲しても、なん
かプライベートっていうか、なんだろ、なんか、自分の空間みたいな、
ここは自分の好きなものとかそういう空間で済みたいな、ここにいる
ときは自分だけの世界みたいな、そういう時間とか場所とかあったほ
うがいいなあっていうのがあるわけ、自分としては。

男1 うん。

間

男1 うん。あ、わかるよ。

女1 わかる？

男1 うん。あれでしょ？ なんか、あの一、秘密基地じゃないけど、な
んかここにいたら落ち着くとか、自分が自分で居られるみたいなさ
う空間とかは、うん、やっぱあったほうがいいよとかは俺も思
うよ。

女1 そうだよ。あ、良かった〜なんか。だから、そういうふうにした
いわけ、部屋を。お互いの場所をつくるみたい。

男1 あ、全然いいよ。俺もそれあったらなんか好きな漫画とか、たくさ
ん置きたいなとかあったから、そんなってやろうかな。

女1 全然それはユウジの好きなような感じにしていいし、していいしっ
ていうか、していったほうが自分としても、なんか自分だけ好き放題
やってるみたいない感じじゃないし、そのほうがなんか自分としてもや
りやすいはず。

男1 うん。

女1 それにさ、なんか、そのほうが続くと思わん？

男1 続く。

女1 なんかこの関係っていうか、なんかあれさ、同棲とかしたら喧嘩と
か小さいことで言い争ってから、それでも別れるみたいなの、そうい
うこともなんかありそうさ？ でもこんなってやったら、お互いにお
互いの場所は自由にやっていいっていうのがあるから、困ったらそ
こに逃げればいいし、二人で居たいときはそうしたらいいしっていう。
なんか良くない？ そういう感じのほうがいい。

男1 うん、超いいと思う。

女1 じゃあそんなってやろう？

男1 うん。

男1、女1、家具などを部屋の中央に置いていき。分断している。

男2、その間に登場する。

男2が話している間に、男1は退場している。

男2（観客に）というこのカップル、そういう流れがあつて、部屋の中を

こう、ぶった斬るといふか、こっからこ俺、こっからあそこお前、みたいな感じでこう、境界線を引いていったんですね。で、えっとこれは、たぶんですね、2週間前（？）、3週間かな。たぶん一ヶ月は行ってないと思うんで……一応まあなんかそれくらい前の出来事なんです。これは。同棲始めるときに、こんなってやろうって話したっていうのが、いま見てもらったところですね、で、この後は、見てもらうのが、そこから2、3週間後っていうことに、だからこれはなるんですけど、

ていうかね、このカップル、お互い自分だけの場所つくろう？とかって言ってたでしょ？ それは別にいいんですけど、そういうのは俺も実際そういうのいいな〜とかって思ってるからそれは別にいいんですけど、でもこのアパートね、ワンルームなんです。やったーそれどんなってやるば？っていう……。まあ、だからこそ境界線をこう、（線を引く動作）やるっていう、そういう風にしていたんだと思うんですけど、ていうかそういうふうにはかできないってことではあるんですけど。引かないっていう選択肢はなかったのかっていう

……まあでも個人の自由というか、それも。お互いがそれでいいなら別について話なんですけど。

目覚まし時計のアラームが鳴る。

男2、退場。

間

女1 鳴ったよー！

男1（の声）うん！

女1 じゃあ急いでくれない？

男1（の声）うん。

男1、パンツ1枚で、肩からバスタオルをかけて小走りで登場。

「自分の場所」まで行き、座って、うちわで仰いでいる。

間

男1、足をボリボリ掻きだす。

女1 10秒くらい過ぎてるんだけど。

男1 ごめん。

女1 アリサだけ時間守って、あんたは守らんわけ？

男1 いいやつし、10秒くらい。

女1 は？ あんたが言ったさ、時間決めようって。風呂とかトイレとか共用だからって。

男1 うん、言ったけど、そんなにやらんでよくない？

女1 そういうところから有耶無耶なつてからダメになるんですよ。

男1 うん……。

女1 それだったらドライヤーとか、アリサ専用にするよ。

男1 いや、それはおかしいでしょ。

女1 だってあれアリサのさ、もともと。

男1 いやだけど、あれは共用にしようってなったやつし。

女1 それはお風呂とかトイレとかの時間ちゃんとするっていうのが前提でしょ？ それ破つといてドライヤー自由に使わせとかおかしいんですけど。

男1 ……わかった、ごめん。ちゃんと守るよ。

女1 うん。次罰金だよ。

間

男1 しに痒い。

女1 なに？ 乾燥？

男1 うん。なんかない？ 塗るの。クリームのな。

女1 あるよ。

男1 貸して？

女1 どんくらい？

男1 一応、両足あれだから。

女1、保湿クリームを取り出し、そこからスプーンか何かで適量を取り、男1に差し出す。

女1 足りる？

男1 たぶん。

女1 借りるんだったら返さんといけんよ？

男1 ああ……ちようだい。

女1 じゃあ500円。

男1 高っ！

女1 え、いらんの？

男1 いらんよや、そんなにするなら。

女1 じゃあキャンセル料300円。

男1 は？ キャンセル料？

女1 は、だつてもう取り出しちゃったさこんなつて。この状態で戻すのつてできんからねもう。なんなら全額取りたいくらいだけど。

男1 ……いいよじゃあ。

男1、財布から500円を取り出し、女1に渡す。

女1、コインを受け取り、スプーンを渡す。

男1、クリームを足に塗る。

間

女1の携帯が音を鳴らす。

女1、立ち上がり玄関へ消える。

戻つてくると、その後ろに、男2の姿。

女1、男2、「女1の場所」に向かい合つて座る。

男1、二人の様子を怪訝な目でじつと見ている。

男2 (男1をチラ見しながら) 彼氏?

女1 うん。

男2 大丈夫?

女1 うん、全然。

間

女1 テレビ見る?

男2 え? あ、うん。

女1 一応30分しか見れんけど、連続で。

男2 え、そうなの?

女1 うん、一応取り決めがあつて。共用だから、テレビつて。だから最長30分ね、つていう。

男2 ああ。

女1 あ、別にスマホで何か見るとかなら、自分のだからどんだけ見ても関係ないんだけど。

男2 あ、じゃあスマホで見る? こないだの漫才のあつたさ、あれネットにあつたからあれ見よう。

女1 あ、見たーい。

男2、スマホを取り出し、操作する。

女1、イヤホンを取り出し、スマホに取り付ける。

二人、片耳にイヤホンを付け、身体を近づけて、一つの画面を微笑みながら見ている。

男1、その様子を見ている。

間

男1 え?

間

男1 え!

女1 (イヤホンを外し) なに?

男1 え……誰?

女1 え、誰でもよくない?

男1 よくないでしょ! え、浮気相手?

女1 関係ないでしょ。

男1 いやいやいや! おかしいでしょ! え、なんで彼氏いるのに、堂々と浮気相手を上げてるの? え、どういうこと?

女1 え、でも、ここアリサの場所でしょ?

男1 だからって、これはなくない?

男2 (イヤホンを外し) 大丈夫?

女1 あ、全然。

男1 は?

間

女1、男2、イヤホンをつけ、画面を見る。

間

男1、立ち上がり、部屋から出て行こうとする。

女1（イヤホンを外し）どこ行くの？

男1（振り返り）いや、ちょっと気まずいし。

女1 ああ。

男1、向き直り、玄関へ。

女1 あ、ユウジ！

男1（立ち止まり）ん？

女1 あの、コンドームちようだい！

男1 え？

女1、財布から1000円札を取り出し、男1に差し出す。

間

照明C・O

（了）